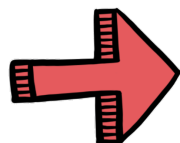


落ち着きのない子にはどう関わればいいのか？（1歳児の場合）

1歳児なので、その年度のどこかで2歳になる人。

→低月齢で年度末の3月に2歳になる子は1歳代の発達として成長。

→高月齢で年度初めの4月に2歳になる子は2歳代の発達として成長。



何が言いたいかというと、“かなり幅がある”ということ。

1～2歳代の子の発達は本能的で、まだ過去の体験からやることを予測できない段階から徐々に理解できて、大人の言動で仮に指示理解が全て理解できなくても、キーワードから予測して動けるようになる時期。

理解力や自分の考え・気持ちを少しはこらえられると言えど、体からくる本能的欲求には勝てず、動いてしまったり、その子の持つ個性が強く出てきたりする。

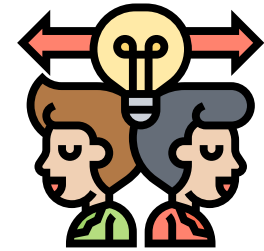
この時期に落ち着けない子は、欲求や理解不足で動いてしまうことが多いので、子どもが理解しやすいように声かけ、短期間同じことを繰り返す関わり、子どもたち同士でテンションが高くなっちゃっても落ち着けるように声掛け、クラスメイトとの距離感の調整などで配慮することがメイン。



落ち着きのない子にはどう関わればいいのか？（1歳児の場合）

1歳児の場合（例えば…）

「遊んでいるときに元気すぎて周りを見ていない…。他児とぶつかることもあるため何度も止める必要がある。どうすればいいのか。」



●遊び以外の場面でも周りを見て動くことができますか？（欲求とか特性を意識する）

NO



子どもは本能的に動いてしまい、自分では抑制がきかない。声掛けも必要だが、生活の中で「ねえねえ、あれ見て。」と間を置いて話しかけることは大事。（子どものペースに巻き込まれて大人も言葉遣いが早くなならないように注意する。大人が落ち着けない子どもに間を与える。…という意味。）

YES



見て動ける＝少し頭で考えることができると推測できる。
落ち着きがなくなる場面はどんなときか？
落ち着きがなくなるときは、場が広い、物が多い、テンションが高い子が周りにいるなど、なぜハイになるのかを調べる。可能性を1つずつ消して、環境が苦手なのか、理解がまだ未熟なのか…検討をつける。

落ち着きのない子にはどう関わればいいのか？（1歳児の場合）

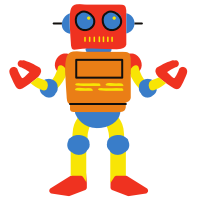
▼（動いちゃう）個性・特性が強いこの場合はどうすればいいのか？

ほんのちょっとでもいいから間を置いて話すことが大事!!

難しい場合は場を変えるなど、子どもが動いちゃっても声が届く場所で2人で話す。

廊下の端とか狭い空間とかはオススメ。

瞬発的にドアを閉めるとか、大人が子どもに急にアクションを起こすと、子どもは聞く構えがより取れなくなるので。



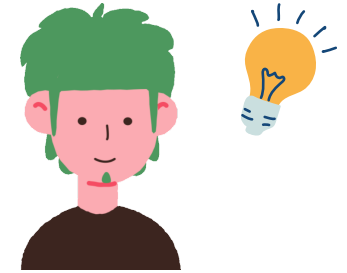
1歳児の動いちゃう子にも言われたことをやる気持ちはある。

何度も声掛けは必要だけど、大人が声のトーンや話のスピードをゆっくりにして、子どものペースを少しでも落とすことが大切。

あと、落ち着けない子にとって、見てほしい物を目できちんと見てもらうためにも間を置くことは大切。子どもが“何か伝えられているんだ”と認識することは、今後指示等のときに注視してくれる経験値やキッカケにもなる。

落ち着きのない子にはどう関わればいいのか？（1歳児の場合）

●YESでもNOでも、年齢に対して幼い場合は…



▼理解力がのんびりで、周りに引っ張られて動いちゃう子の場合。

→1日の中で何度も声掛けをするより、特定の場面を絞り（登園時の靴やかばんの片付け・準備など）しっかり大人が付いてその活動を確実に一緒にこなすことを繰り返すことをオススメしたい。

なぜかと言うと…

1歳児の場合、1日の中で教えられることが多いとキャパオーバーになる。もちろん声掛けで教えることは必要だが、「この場面はいつものルーティンになるから理解しやすい！」という場面を繰り返して、確実に理解できることを増やすことが優先。

しつこいですが……

理解力を養うことは必要！でも、幼いゆえに、1つ1つ教えると指示数が増えることを先生が注意しておく必要あり。最初に教えるポイントは、生活習慣のルーティンになるところをが確実に教えやすいと思う。



落ち着きのない子にはどう関わればいいのか？（1歳児の場合）

● 落ち着きがない子の環境を考えると。



場所が確保できる場合は、遊び場を広く取ったり、体を動かすエリアとおもちゃエリアの間に先生が座ることで空間を仕切ることもできる。

身体を動かして遊ぶ場合は、足場の上を“狙ってジャンプ”、“着地で止まろうとする”、“いっぱい走って、その後ピタッと止まる”など、小さな動きと大きな動きの両方を作って遊ぶと、子ども自身に体を止めようという気持ちが体に出てくる。

止める・狙うという動きが、子どもが落ち着くためのトレーニング要素が入ってる動き。



動く体を止めようとするのは難しい。目を追うごとに止まれるように体を作ることや、気が散りにくい環境を設定することが優先。

落ち着きのない子にはどう関わればいいのか？（4歳児の場合）

●4歳児の場合…年中さんですね。

4歳児の場合、まずは幼さがどうかチェック。その上で同時的処理優位か、継次的処理優位かを簡単にでも見立てが必要。（いずれまた別の資料で。ネットで検索してね。）
実年齢より幼いことで落ち着きがない場合は、周囲の環境を理解しきれずに目先のことで動いてしまうことが多い可能性があるため、下の学年の子どもたちと比較して近い学年をイメージ。発達年齢に合わせての声掛けや伝える数を調整する必要がある。

理解力が幼い場合、落ち着けない個性で動いてしまうこともあるが、わからないために“つい動いてしまう”ということもある。この場合なら、実年齢より、同じような言動を取る学年と似た関わりをしていくことが、子どもの理解力up等に大切。



落ち着きのない子にはどう関わればいいのか？（4歳児の場合）

●4歳児の子で落ち着けない個性がとーとーって個性が強い場合。

対応的には、1歳児の子への対応と重なるが、日常生活の中の理解力を上げること、遊ぶなどの動きのときに“動くと止まる・狙う・ピタッと止まる”などの動きを取り入れることが大切。だるまさんがころんだ…みたいな遊びはトレーニングになる。

これ以外は、保護者の方がいいなら運動療育やOT（作業療法）等のトレーニングはオススメ。ただ、OTは医療機関や個人でやっている場合が多く、枠数が少ないため、簡単には入れないと思う。（都道府県によるかな）

→体の動きを取り入れた療育先を検討することになる。
民間の企業等がいろんな特色を出してやっているため、見学して子どもに合うかどうかを見ていくことになる。
子どもの状態にもよるが、やみくもに体を動かすトレーニングより、活動で何かの目的に合わせて体を動かす・調整する…という活動があると個人的にはいいと思う。

